

選抜大会、春季大会に続き、夏の選手権大会中止が、5月20日(水)に正式決定しました。それにともない、各都道府県大会も中止となり、各高野連が独自の大会を実施するかどうかを検討し、栃木県は当初予定の1試合から、県内の保護者の活動により8強までのトーナメント大会(7イニング制)になりました。

各校とも秋季大会の課題を克服するために、12月から3ヶ月の冬季練習に取り組んでいたことと思います。本校もの学年末考査最終日の2月18日(火)の午後から、春季大会に向けて練習に取り組んできました。

1月には4日間にわたり、ヤクルト・巨人・阪神で活躍されたOBの広澤克実さんにも打撃指導していただきました。2月は、暖冬でもあったので雪も降らず、実戦練習もかなりできていたなかで、2月18日からの12日間、3月26日からの12日間の合計24日しかグラウンドでの活動ができていません。もちろん対外試合は一度もできません。その後6月3日から、全体練習を再開することができました。新入生においても、従来、3年生とは約3ヶ月程度しか関わらないなかで、この日が初めての練習参加でした。

コロナの問題がある中で、今年の梅雨はものすごく雨が降り続けています。太陽はほとんどみることがありません。熊本や鹿児島、また岐阜などでも大変な水害が起きている状況下で、全国の高校3年生にとっては、高校で野球に区切りを付ける生徒が大多数です。大会でも主力としてプレーする選手もいれば、控え選手として活動する部員もいます。部員数が多い学校では、ベンチに3年間入ることができなかった選手もいることでしょう。野球部員だけではなく、各校応援団、吹奏楽部、地域で応援してくれる方々、みんなの夏がなくなってしまいました。

ただ、どのような立場であろうと、全員が“甲子園”に憧れ、野球が好きで始めたことだと思っています。選手一人ひとりの周りには、マネージャーや家族、小中学校時代の指導者、もちろん、現在の指導者やOB・OGなど多くの人が関わっていることと思います。

代替大会がすでに、各地で行われています。他県では、夏休みに行くところもあります。夏休みも少なくとも、新チームへの移行もスムーズに行けるとは限りませんが、この先、忘れられない世代となる3年生は、代替大会に臨む意義を自分で見出して欲しいと思います。小山高校野球部は初日の第一試合のオープニングゲームです。栃木県高校球児の先陣として“勇往邁進”の精神で、全力でプレーします。

【2月以降の動き】

- 2月18日(火)～練習再開
 - 2月27日(木)一斉休校要請
 - 28日(金)練習
 - 29日(土)関東審判講習会中止(29日・3月1日 清原球場)／練習
 - 3月1日(日)練習
 - 2日(月)生徒休校(24日間活動なし)
 - 7日(土)栃木県審判講習会中止(清原球場)
 - 11日(水)選抜中止決定
 - 13日(金)南部地区抽選会
 - 26日(木)練習再開
 - ※ただし、対外試合は禁止
 - 4月7日(火)入学式 練習なし
 - 8日(水)始業式 練習なし
 - 9日(木)2度目の一斉休校(22日まで)
 - 23日(木)一斉休校延長(5月6日まで)
 - 5月7日(木)一斉休校延長(31日まで 後に24日までに短縮)
 - 20日(水)選手権大会中止決定
 - 25日(月)監督会幹事会(宇工)
- …代替大会に対する各地区の意見集約

- 28日(木)臨時理事会…トーナメント回避の方向
- 6月5日(金)理事会…代替大会1試合発表
- 23日(火)抽選会(24日)延期発表
- 24日(水)部長会議(総合教育センター) …8強まで決めるトーナメントに変更
- 7月7日(木)抽選会(宇工)
- 7月18日(土)代替大会開幕(8日間)

【勇往邁進】

恐れることなく、自分の目的・目標に向かって、ひたすら前進すること。

keep going 立ち止まるな。頑張り続ける。
be brave 勇気を出す！肝が据わっている。

〔2・3年生の紹介〕

投手陣は、左の半田、右の速球派伊藤、長身の井坂、サイドスローの花川の4人の3年生が中心となる。昨秋県の強化チームに入った半田は130*前後で、変化球の鋭い投手である。昨春の地区大会で本塁打を放つなど、打撃でも期待していた伊藤は入学当時から140*に迫る速球を誇っていたが、2年生の春季県大会中のケガで夏・秋とプレーできず、ようやくこの冬に復帰できました。長身の井坂は、食トレに自主的に取り組み、体重が約20キロ増えて、非常に安定感も増しました。夏休みの交流戦では、宇都宮南戦で先発し、見事勝利投手となりました。伊藤・半田と宇都宮ポニーでプレーし、サイドスローに転向した花川は、急成長しました。右打者を泳がせて三振を奪う、変化球は見応えがあります。伊藤と共に外野でのスタメンの際には中軸を打つことが予想されます。2年生の投手は安定間のある谷島(やじま)と中山が控えます。二人とも制球力が持ち味で、テンポのいい投球を心掛けます。

捕手は、腰痛で苦しんでいた3年生の富田が中心となり、2年生は打撃がしぶとい、強肩の栗山が外野手と兼任の強肩強打の左の石塚、一塁手と兼任し、校内では生徒会役員としても活躍する今泉がいる。

一塁は、捕手から転向した右の4番打者佐藤、強打と元気がセールスポイントの山口、今泉の2年生が控え、状況によっては、昨年夏からライトでスタメン、フトワークがいい左投げの板橋が入る可能性もある。

二塁は、1年秋にエースであった主将の菅野が中心となる。体も大きくなり、打撃もパワーがついてきた菅野は守備力が大きく向上し、投手の半田と共に、昨秋の県の強化チームのメンバーとして、スタメンで起用された。2年生も和泉も地道な練習で守備力が向上してきた。

三塁は、安定感のある副主将の熊谷、打撃力のある2年生の伊澤がいる。

遊撃には二塁との兼任が出来る二人の3年生吉村と五十畑が入る。吉村は守備範囲の広さが持ち味で、監督が球技大会でスカウトした五十畑はゴロの処理能力は一番と言える。6月に指を骨折したが、何とか回復し、練習試合にも出場している。

2年生の福田は、投手としてもキレのいい球を投げ、1年生大会では本塁打を放つなど強肩強打の選手である。

外野は、左翼に先日の練習試合初打席で初球を本塁打した右の強打の藤沼、投手と兼任の右の花川、左の強打の伊藤が入る。2年生の丸山も地道に練習を重ね、守備範囲が広がってきた。

中堅は、ダイビングキャッチが得意で守備範囲が広い角田が入る。角田は小山南高に双子の兄がおり、14日の最終戦での双子対決が雨天中止となってしまい残

念であった。小技もうまい、機動力の高い選手である。下級生では、投手と兼任の中山・谷島、代走起用のある俊足の高橋が守ることもある。

右翼は、一塁との兼任の昨年夏から一番スタメンの板橋、2年生のパワーヒッター石塚もいる。

どちらも送球能力が高く、ピンチの場面での本塁や三塁での捕殺が多い。投手陣が外野でスタメンの場合も考えられ、全員が一桁の背番号を付けていてもおかしくない。

攻撃面では、先頭の板橋が出塁すると得点率が一気に高まる。二番の菅野がつなぎ、中軸につなげる。中軸には藤沼・佐藤・花川・伊藤などが状況により入ることが多い。2年生に福田・石塚も中軸に入る能力がある。

5番以降は、つなぐ打撃に徹し、外野の間を抜いての長打もある。

打線になるかどうかは、低目をしっかりと見極めることが大切である。二死無走者からでも何とかつないで、得点につなげたい。7イニング制のため、先攻することが非常に大切である。21個のアウトをいかに有意義なものにするかを意識する。

マネージャーの直井・瀧口の3年生コンビをよく頑張ってくれ、二人の先輩を2年生の大橋がサポートしながら、3人の新人マネージャーの教育は大橋がよくやってくれている。

今年の3年生は、私が赴任してから、試合や練習を見てくれて、3年目に入学してくれた生徒である。春から思う存分にプレーできなかった選手たちと少しでも長く、この夏を過ごしたいと思う。

最後に野球部後援会・保護者会には常日頃から、多大なるサポートをしていただき、誠にありがとうございます。

3年生が考えた“勇往邁進”の精神で、部員たちと闘ってほしいと思います。

栃木県立小山高等学校
野球部監督 斎藤 崇

102 回大会 夏への想い (2020 年夏)

【3年生】

「最後の夏」 井坂陽太 (小山／投)

3月にコロナウイルス感染拡大の影響で休校となり、一時部活再開もあったが、野球ができない日が3ヶ月も続いた。その間に甲子園と地方大会が中止になった。この3か月で、今まで野球をしてきていたのが当たり前ではないのだと実感することになった。

1年の春に入部してから今日まであつという間で、これで最後の大会なのかと思う。自分は、小学二年から野球を始めて9年になる。高3の夏は、自分の中で野球の一区切りになると思う。今まで野球をしてきてつらいことや嫌になることもあったが、今振り返ると野球をやって楽しく、やって良かったと思う。また、野球をすることで多くのことを学び、成長することができたと思う。

もし1試合でも試合ができるのであれば、最後まで野球を楽しんで終わりたいと思う。大会が中止となり、気持ちは複雑だが、代替が行われたら、集大成として全力でプレーしたいと思う。

白球に 気持ちを込める 最後の夏

今までの 野球人生 振り返り
気持ちぶつけて 全力プレー

「夏に向けて」五十畑颯太 (間々田／内)

今年は新型コロナウイルスの影響で高校野球春季大会が中止になってしまった。またそれに続き約3か月間の全体練習が禁止になり、夏季大会までもが中止になってしまった。すごく残念だし、悔しかった。全体練習が再開し、高校3年生の球児たちのために代替大会を実施してもらうことになったが、正直全く練習に身が入らなかった。しかし、結果が全てではないのではと思い始めた。野球を通して様々なことを学んだ。また人間的に大きく成長できた。大会がないから、試合が出来ないから、甲子園が実施されないから野球をやらなくかではないと思う。試合や大会がなくても、野球をやることに意味があると思う。自分は高校で野球に一区切りをつけるつもりでいる。だから最後に自分がどのように終わりたいかを考えて、それに向けて行動していく。今できることを精一杯行い、最後にやり切ったと言いつけるような終わり方を出来るようにしたい。

観衆を 驚嘆させる 好プレー

最終回 仲間信じて 一丸に
快音響かせ 特大アーチ

「高校野球の3年間」板橋大季 (南犬飼／外)

自分は、昨年初めて高校野球の夏大会を味わわせていただき、自身の無力さで先輩方の夢への手助けができず、悔しい思いをした。

そのため、新チームになり、一人一人が体づくりから見直し、力を発揮できるように準備を続けてきた。基礎的な練習と体づくりのウェイトトレーニングを夏休みの期間にみっちり行い、練習試合で見つかった課題についてミーティングで改善点を話し合い、多くの課題を少しずつ改善していった。冬に入

り、トレーニング中心の練習でも自分で定めた目標の重量を上げるため量をやっていた。やっとな冬が終わりいざ夏に向かって一直線だと思っていたとき、コロナウイルスで練習ができなくなり、春、夏と大会が中止になってしまった。その事実がとても悔しいけれど、最後に代替大会が設けられ、どのような大会になるかはわからないけれど、この3年間の思いをこの大会にぶつきたいと思う。

開幕だ 鼓膜に響く サイレント

得点圏 バントで送った ランナーを
ヒットで返す チームスポーツ

「最後の夏に向けて」

伊藤樹 (作新学院・宇都宮ポニー／投・外)

小山高校野球部に入部し、約2年半が経ち、ついに最後の夏を迎えます。しかし、新型コロナウイルスの影響により、甲子園をかけた大会がなくなってしまいました。とても複雑な気持ちでいっぱいでした。最後の集大成となる大会が中止となることは誰も想像していなかったし、誰かが悪いわけでもありません。自分は、2年の春からケガをし、新チームになってから一度も公式戦に出ていないし、実践経験も多くはありません。秋・春と試合に出られなかった悔しさをプレーで示していけるよう練習してきましたし、確実に技術やメンタルの部分も大きく成長してきたと思う。また、ここまで野球を続けられてきたのは、家族の支え、何かの縁があって出会えた最高の仲間たちの存在があったからだと思います。

大会では、自分がやってきたことを信じて最大限のプレーをします。そして、応援して下さる全ての人に感動を与えられるような野球をします。

熱闘の 球児の夏は 終われない

快音と 描くアーチと 歓声に
想いよ届け 場外ホームラン

「感謝」角田智耶 (明治・上三川B／外)

ニュースで甲子園が中止と発表されたときにはすごいショックを受けた。野球以外の競技でも夏の大会が中止になり、「このまま県大会までなくなってしまわないか」という気持ちから、不安だけでなく悔しいと思った。

小学3年生で野球を始め、高校最後の大会のために辛い練習を乗り越え、今まで続けてきた。モチベーションを保つのも難しくなってきた。

5月28日に県大会の開催が決まった。県大会も中止している県がある中での開催、自分達のために動いてくれていた方々に感謝したい。

最後の大会は一試合だけになろうとも、その一試合のためにベストを尽くす。そして、全力でプレーをすることで自分の野球人生に関わってくれた方々にかんしゃのきもちを伝えたい。

夏の朝 汗を流して 夢を追う

野球場 全力プレーで 掴む勝利
悔いなく終わる 高校野球

「自分たちの夏」菅野正悟 (主・大平南／内)

私は、この一年間小山高校野球部の主将として日々の練習や学校生活に取り組んできました。毎日がとても充実していて、あっという間にここまで来たという印象です。私は、先輩方が悔し涙を流したあの試合をマウンドで経験させていただきました。とても悔しく、無念なあの負けは、今でも脳裏に焼き付いています。あの日から、自分たちがベストを尽くせずに負けることが一番不甲斐ないことだと思ようになりました。そのため、新チームは主体性を持ち、どうやったら上手くいくのか、どうしたら試合でベストを尽くせるのかを考えて練習しました。ケガや、結果が出なかつたりして、悩むことも多くありました。その度に支えてくれる仲間のおかげでここまで立ち直ることができたと思います。感謝という言葉は、口に出すだけならだれでもできます。今までの感謝は、自分の行動やプレーで表現します。

これから、私たちは大人になってもコロナ世代と呼ばれると思います。コロナウイルスの影響で、春の大会も夏の大会も中止になりました。正直、やりたかったという気持ちがとても強いですが、しかし、人生は思い通りにならないことがほとんどだと思います。幸いに栃木県は、代替大会が予定されています。今できることは、未来を信じて目の前にある今を全力で生きることだと思います。どういう形になっても、最後まで主将として誇りを持ってチームを支えます。

最後まで その白球を 追いかける

コロナにも 負けない元気 持っている
最後の夏で 大暴れする

「夏への想い」 熊谷晟児（栃木南／内）

自分は、最後の夏の大会に向けて日々努力を重ねてきた。しかし、コロナの影響で甲子園、地区大会がなくなるという異常事態となった。自分達の最後の望みは、県独自の大会が行われることだ。ここまで頑張ってきたのに何も行わずに高校野球が終わるのはあまりにも不完全燃焼である。どんな状況になるか分からないが、やれることをやるだけだ。

秋の大会では、私立相手に負けてはしまったが、何とか食らいついた。この悔しさをバネに自分もグラウンドに立てるよう、必死にもがいた。徐々に力がついたことを実感し、試合で結果を残すよう最後の追い込みをかけたが練習すらできなくなってしまった。自分の成長を支えてくれた人々に見せることができないというのが一番悔しい。しかし、この2年半で人間としてもかなりの成長ができた。

最後の夏、残された高校野球に後悔がないよう、気持ちを切り替えて、野球を存分に楽しむ。

はらすとき 全ての想いを 夏大で

たくさんの 困難乗り越え 最後には
仲間と共に 勝利をつかむ

「悔いのないように」 佐藤泰河（小山／内）

最後の夏は普段通りの野球ができない、そう思ったことはこれまでの野球人生で一度もなかった。春がなくなった時、何で俺らの代でこうなるのだと、長く引きずってしまった自分がいた。しかし同時に、夏も怪しいのではという思いがあった。6月になり、本当に夏がなくなると決まった時は、これまでにないショックを受けた。今まで費やしてきた時

間は何だったのかという怒りさえもあった。しかし、様々な人からの「ここで止まっちゃいけない。」という言葉もあり、切り替えてここまで来ることができた。

高校野球からもらったのは、野球の技術だけではない。このような壁にぶつかった時に乗り越える力ももらってきた。だからここで止まっていたら、何も自身の成長がないことと同じだ。高校野球は素晴らしいものなのだということを、応援してくれる人、支えてくれた人に示せるよう、後悔しないような努力をこれからも継続して、高校野球を終える。

苦悩の夏 壁を乗り越え その先へ

今がある その一瞬を 大切に
悔いのないよう 前へ進め

3年目の夏 瀧口叶（絹義務教育学校／マ）

これまでの夏を振り返るとたくさんの出来事がありました。1年生の時の大会は、初めての夏でかなりあたふたしてながらもベンチ裏の仕事やスタンドでの応援を楽しみました。2年生の時の大会は後輩のマネージャーができ、少しずつ仕事を教えながらスタンドで名前、曲名のボードを持って一生懸命に応援しました。

そして私たち3年生の代になり、練習や試合をたくさん積み重ねてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響でいつものように夏の大会が行われません。私は、甲子園や地方大会の中止を耳にしたとき、正直実感がわきませんでした。よくよく考えてみると、毎年行われる甲子園、地方大会をやれるということは多くの人に支えてもらってこそなんだと改めて感じました。私たちはコロナウイルスにうまく対応し、切りかえなければなりません。残り数少ないチャンスを、最後の試合を精一杯やりきりたいです。

これからも 高校野球は 終わらない

いつの日も 野球ができる ありがたさ
最後の夏に 改めて思う

「夏への思い」 富田和輝（札幌・柏／捕）

今年の夏は例年とは大きく異なり、甲子園につながる大会がなくなってしまった。代わりに代替の試合が設けられたが、正直モチベーションを高く保っているのは難しいと思う。試合を出来るだけでも感謝という声もあるが、自分はそう思えない。やるならとことんやりたいし、中途半端な終わり方はしたくない。頭で理解はできても納得はできていない。それでも自分たちは与えられた環境で精いっぱいプレーする義務があると思う。2年生や1年生、保護者の方々は自分たちが1試合だからといって手を抜いてプレーしている姿を見たくはないだろう。自分たち3年生には今まで先輩方がしてくれたように思いをつなぐ使命がある。保護者の方々に全力のプレーを見せる義務がある。そして終わったあといい野球人生だったと思えるようになりたい。たとえ大会がどんな形になっても自分たちには背負うべきものがあることを忘れずに夏を乗り越えようと思う。

辛くても 前進前進 また前進

今までの 努力を決して 忘れずに

あきらめるな 熱くなれよ

「壁」 直井遥音 (絹義務教育学校/マ)

5月28日に県大会の代替大会が開催されることが決まり、6月16日に一試合限りで拮抗的な実力差のチームと試合が組まれることが決まった。部員ともども複雑な心境の中、日々練習に励んでいる。

大会まで約1か月。最後の1か月にして最大の壁が私たち3年生の前に立ちはだかった。それは「野球」と「受験」の中で揺れる気持ちだ。甲子園がないどころか、勝っても負けても最後の試合。先のない試合に私たちの心は揺れている。最後までやり抜きたい人、先がないならもう切り替えて受験モードに入りたくない人、ここにきて3年生の意見が割れてしまった。当然のことだ。一人一人にそれぞれの人生があって、未来に思い描いているものがある。野球はその通過点に過ぎない。おそらくまだ全員の想いがまとまらないだろう。むしろギリギリまで悩んで、全員が悔いの残らないラストにできたら一番良いと思う。

今まで約二年半つたない力ではあったが部員をそばでサポートしてきた。暑い日も、寒い日も、苦しい時も。そんな部員達の努力が報われますように。

皆がどんな決断をしても最後までサポートし続ける。

集大成 最後に魅せる 最高の姿

勇敢な みんなの姿が 大好きだ
最後に飾ろう 有終の美を

「最後の夏への思い」

花川佳己 (陽東・宇都宮ポニー/投・外)

自分は今年で野球を始めてから9年が経とうとしている。野球人生は高校で一区切りをつけるつもりだったので、最後の夏の大会には人一倍強い思いがあった。

しかし、コロナウイルスの影響で大会が中止となり、甲子園出場という目標に挑むことすらできない結果となった。幼い頃から夏の大会で相手との熱い勝負をすることに憧れを持っていた。悔しくてたまらないのが本音。この思いは1・2年生にはしてほしくない。

だが、高野連をはじめとする先生方や保護者の方々のご協力のもと、代替大会が開催されることが決定した。自分達の為に活躍の場を与えて下さったので、プレーで感謝の気持ちを表現したい。

この代替大会は、2年半共に戦ってきた3年生15人と一緒にできる最後の大会となる。最後なので思いきりプレーをして最高に楽しむ。

振り返る 白球片手に 三年間

われ信じ 仲間を信じ 一丸に
熱くプレーし 勝利をつかめ

「最後の夏」

半田裕海 (姿川・宇都宮ポニー/投)

自分は最後の夏を向かえ、今まで練習してきた。しかし、コロナウイルスの感染拡大の防止のため、春の大会と夏の大会がなくなりました。薄々、中止だと分かっていたのですが、いざ本当に中止と聞いてみると信じられませんでした。ですが、代行試合があるかもしれないと聞いて、そこに向けて、切り替えてこれから練習をしていこうと思いま

した。昨年は、夏の大会は、何もできなくて終わってしまった悔しさを糧に今年の大会はやってきたことを全てぶつけられるように最後まで頑張ってきた。また3年間、皆とやってきた野球を無駄にせず、ピッチャーとしてこのチームを引っ張っていく。

親には今まで支えてもらっていたので集大成としていいプレーなどをして、恩返しして、親に喜んでもらいたい。

悔しいが 切り替えてやる 集大成

夏最後 仲間を信じて 一丸に
くさることなく 勝利をつかもう

「最後の夏」 藤沼響輝 (小山/外)

野球部に入学してから2年が過ぎ、3度目の夏を迎えようとしています。今年は春の大会が開催されなかった分、自分たち3年は夏の大会に全力を尽くしていきます。これまで高校野球をやってきて、野球の技術が向上したのはもちろんですが、人として大きく成長することができました。当たり前前に練習や試合ができていたということが本当に恵まれていたことだと実感しています。野球ができていたということに感謝してできることを一つ一つやっていこうと思います。今まで練習をしてきたことが十分に発揮できるように最後の大会に臨んでいきます。自分の長所である足を生かした守備と得意なバッティングでチームに貢献できれば良いと思います。これまで一緒にやってきたチームメイトと一日でも野球をするためにチーム一丸となって勝利を掴んでいきます。最後の夏に全ての想いをかけて自分の最大限のプレーをして最後までやり遂げようと思います。野球ができることに感謝してプレーしていきます。

白球に 全力懸けた 夏の空

今までの 練習の日々を 思いだし
熱くプレーし 勝利をつかめ

「最後の夏」 吉村翼 (小山市城南/内)

入学から約2年半が経ち高校野球生活も終盤を迎えた。今の自分と昔の自分を比べると善い変化があったと思う。技術力の向上はもちろんだが、特に人間的な力がついたと思う。入学当初の自分は周りの様子をうかがってばかりであったが、先輩や先生から主体的に取り組むことを学び、自分で考えて行動する力がついたように感じている。また、高校野球をやったのは保護者の方々の支えがあったからで、お世話になった方々への恩返しとして最後の大会を迎えようと思っていた。新型コロナウイルスの影響により大会は中止になってしまったが、多くの人の協力によって代替試合が開催されるということなので、それに感謝して全力でプレーする。

今までにない異例の事態で混乱が続いているが、こういった状況で試合ができるということは幸せなことなのでベストを尽くし、プレーで感謝を示し、笑顔で引退できれば良いと思っている。

白球を 追い続けてきた 三年間

集大成 お世話になった 方々に
プレーで示す 感謝の気持ち

【2年生】

「夏の大会に向けて」谷島大介（東陽／投）

夏の甲子園が中止となってしまい、3年生は僕には想像が出来ないくらい辛く、悲しい気持ちになったとおもいます。春の大会が中止となり、夏の大会に万全な準備をして戦おうとしてきましたが、戦後初の甲子園中止となってしまいました。

3年生には、約1年半一緒に野球をやらせていただき、野球の技術面をはじめ、意識だったりいろいろなアドバイスをいただいたり、励ましてもらったりすごくお世話になりました。

3年生には、栃木県での独自の大会で全力を出し切って悔いのないように高校野球を終えられるように僕たち2年がサポートして、チーム一丸となり結果をだすという強い気持ちを持ってのぞみたいと思います。自分の役割をしっかりと理解し、いつ試合出てもいいようにしっかりと準備し3年生の力となるようにベストを尽くしたいです。

復活の 兆しませよう 全員で

最後まで 追い続けよう 白球を
終わらせないぞ 夏の大会

「二年の夏」伊澤聖（国分寺／内）

あつという間に1年が過ぎ、2年生としての夏を迎える。先輩と過ごせる日々も残りわずかとなった。自分は試合に出させてもらいたくさん経験させてもらった。ミスもしたし、迷惑も数えられないくらいかけた。だからこの夏は先輩に恩返しをしたい。秋の大会に負けてから技術の向上だけでなく、体の強化にも取り組んだ。どんなに辛い時でも先輩が引っ張っていつてくれた。先輩方がいなかったら途中であきらめていたかもしれない。そんなチームを引っ張る姿はとても尊敬しているところであり、自分達2年生に足りない所だと思う。自分は先輩のように上手になりたい。先輩を超えたいと思いながら練習してきた。夏までの間、先輩からたくさんのことを学んでプレーに生かしていきたい。それが恩返しの1つであると思う。

今自分ができること、やらなくてはならないことを考えてチームに貢献できることをやる。

今までの 思いを込める 一球に

今ここで 野球が出来る 喜びを
プレーで示す 僕らの思い

「夏に向けて」

石塚翼（大平南／外・

捕）

初めての夏の大会から1年が経ち、2回目の夏の大会が来ました。昨年は1年生で試合に出ることがなかったので、プレーではなく道具の準備など見えない所のサポートをしていました。しかし、2年生になり試合に出ることも増えました。だから今年は、3年生をプレーで助けたり、スムーズに試合ができるようにグローブを出したり、万全な状態で試合に出られるようサポートします。

昨年の夏の大会では1回戦で負けてしまい、とても悔しい思いをしました。そして、秋から夏の大会の勝利に向けて、練習をしてきました。今年の夏は3年生が悔いのない思いで引退ができるようにしたいです。今の3年生には、野球や生活で色々なことを教えてもらい感謝しています。この感謝を行動で返せるように今年の夏は、3年生のために全てを尽

くせるようにしたいと思います。

一つずつ 勝ちを重ね 県制覇

夏大会 仲間を信じ 全力で
一球一心 心を込めて

「夢中は努力を越える」

和泉帆高（南河内／内）

小山高校野球部に入部し、1年が経った。この1年間で高校野球の楽しさや面白さ、また辛さや厳しさなど様々なことを知った。しかし、ほとんどは厳しさ、辛さ、自分に対する甘さだった。結果が出ない中でどう努力するか、ただ努力するだけではない、どう考えるか。そんな時、元プロ野球選手の広澤さんのお話を聞く機会があり、そこで野球部全員に対して言ったこの一言がとても印象に残っている。「努力より強い言葉がある、それは夢中だ。」この後自分でもよく考えたが、これは自分が「夢中になろう。」と思っても無理なことであり、まず野球が大好きであり、野球に対する意識を変えなければ夢中にはなれない。あのイチロー選手も「努力を努力と思っているうちは報われない。」と言っていたが、二つの言葉は似ていると自分的には思う。どこまで努力という言葉をいい意味で消せるか。残りの期間野球に対して夢中になれるようにする。

ひびかせろ 猛暑に負けぬ 打球音

1ミリも 忘れていない くやしさを
晴らすべき場所 この夏にあり

「感謝」今泉 翔太（美田／捕・内）

新チームが始まってから、冬を越え、自分達は春と夏の大会に向けて練習してきましたが、新型コロナウイルスの影響で大会が全て中止となってしまいました。

まず、野球が出来るのは当たり前ではないということを知りました。災害などで部活が休みになってもすぐに再開することが出来たので、心のどこかで野球はいつでも出来ると思っていました。今回も春や夏の大会は出来ると思っていましたが中止となりました。なので、これからはもっと野球が出来る事に感謝してプレーします。

また、先輩方に恩返しをしていきます。先輩方には色々な面で支えていただきました。夏の大会は中止となりましたが、他の大会やこれからの練習で自分に何が出来るかを考え、何等かの形で3年生に恩返しをしていきます。この二つの事を自分は頑張っていく予定です。

この夏を 仲間とともに 走り抜け

今までの 日々の練習 思い出し
夏の舞台で 全力プレー

「3年生への想い」大橋マミ（小山二／マ）

私が野球部に入部してから早いもので1年が経とうとしている。今年は新型コロナウイルスの影響で春の大会・夏の大会がともに中止となってしまったが、夏の大会の代替大会が開催されることになった。3年生にとってはこの大会が最後となり、3年生と共に部活をすることもできなくなってしまう。入部してから今まで先輩方、特にマネージャーの先輩にはとてもお世話になってきた。これまでお世話

になった分、今自分が出来ることを一つ一つやり、感謝の気持ちを伝えていきたい。

また、春・夏の大会が来年開催されるのであれば、自分達が先輩の想いを引き継いで優勝を目標に頑張っていきたい。

新型コロナウイルスの影響で約2ヶ月半部活が出来なかつたので、その期間の分、今日の前にある課題にチーム一丸となって取り組んでいく。そして、大会がどんな試合形式になったとしても全力で応援し、1日でも長く先輩方と一緒に部活が出来ることを祈っている。

今までの 感謝の気持ち 応援で

今までに お世話になった 先輩の
最後の勇姿 目に焼き付ける

「夏大に向けて」 栗山 啓汰 (国分寺・捕)

私はこの夏の大会でキャッチャーとしてチームの勝利に少しでも貢献しようと思っている。

去年の夏に新チームとなり、その時からたくさんの試合に出場させてもらった。下級生だったが先輩とバッテリーを組むことが多かった。サインを出すときに自信が無かったり、迷ったりしてしまうこともあった。バッティングは下位打線を打つことが多かった。バントなどの細かいプレーをする機会がたくさんあった。

夏の大会では、守備は、キャッチャーでピッチャーを引っ張り、スチールも刺せるようにする。バッティングは、自分の仕事は何かを考え、出されたサインをしっかりと決める。走塁は、次の塁を常に狙う気持ちで、チャンスがあったら迷わずスタートする。

春大が中止になってしまい、三年生にとっては最後の大会なので、チーム一丸となって戦っていく。

最後まで 白球追った グラウンド

今までに 練習したこと 信じれば 緊張しても ベスト尽くせる

「野球から学んだこと」

高橋寛佑 (国分寺/外)

去年の夏、私たちは新チームとなり、この夏に向けてスタートを切りました。最初の秋の大会。初戦、2回戦共に突破し迎えた3回戦の相手は青藍泰斗。栃木県内で手強い相手チームの一つでした。しかし、私たちは自分たちを信じて戦いました。結果は6対1。敗因は、相手との打力の差でした。そこで私たちは大きな悔しさと、大きな熱意を持ちました。そして、冬の体力作りや筋トレなど様々なメニューをこなして秋よりも一段階自分たちは成長することができました。

他にもこの冬は、私たちに多くのことを教えてくれました。その一つとして、仲間との信頼関係というものがありません。お互いに声を掛け合ったり、悪い点を教え合ったり様々なところでこの信頼関係は生まれたと思います。

この夏に向けて私たちは、様々な面で成長することができました。今野球ができていることを幸せと思ってプレーをする。

滲む汗 砂まき上がる 甲子園

部員たち あの日の想い 忘れない
みんなで行くぞ いざ甲子園

「最後を良い形で迎えるために」

中山涼雅 (野木二/投・外)

今年は、新型コロナウイルスの影響で春夏の県大会、甲子園が中止になってしまった。現時点では県独自の大会が開催されるかはまだわからない。もし開催されるのなら、約一年半お世話になった先輩方のサポートをしっかりとしたい。

三年生は、冬が明け、春に近づくにつれてより意識が高まっていたイメージがとても強い。はじめ全体練習後、個人練習をしているのは数人だった。しかし、自分や二年生の部員は三年生の意識の高さに動かされ、春大中止が決定する少し前にはほぼ全員の部員が個人練習をするようになっていた。そんな一生懸命野球に取り組んできた先輩方には最後しっかりと恩返しをしたい。

自分ができることはチームをサポートすることだ。一年生が入学し、先輩ができた。一年生はまだ部活動に参加していなく、わからないことが多いと思う。自分達二年が積極的にサインプレーなどのわからないことを教え、三年生が野球に専念できるようにしていく。

とびきりの 笑顔でプレー 勝利まで

泥臭く 一級一審 最後まで
頑張ってきた 想いを乗せて

「夏に向けて」 福田昂生 (桑/内)

今年の夏の大会は中止ということが決まった。この経験で、毎年できている甲子園は普通ではないことが分かった。しかし、代替大会が開催されることになったので、それに向けて時間を有意義に使わなければいけない。コロナウイルスの影響で2か月ほど全体練習をすることが出来なかつた。残り1ヶ月半ほどで、2か月のブランクを元に戻し、さらなる成長をしなければならぬ。そのため、練習の質を向上させる。

夏の大会は無くなってしまったが、3年生にとっては、代替大会が最後となる。これが3年生としての集大成であり、秋から始まっていた新チームの集大成ともなる。3年生が悔いを残さず、また、チームの最後の試合となるので全力プレーで絶対に悔いを残さないように、このチームでやれてよかったと思えるように、夏に向けて取り組んでいく。

全員で 勝利目指し 突き進め

グラウンド かけめぐる夏 甲子園
一つ一つの 全力プレー

「夏大に向けて」 丸山蓮生 (小山二/外)

今年の夏の大会は、コロナウイルスの影響で中止になることが決まってしまった。しかし、そこでもう試合がないからといって練習をしないのではなく、大会があることを信じて練習することが大切だと思う。

昨年の夏は、初戦敗退というとても悔しい結果になってしまった。今年の夏に大会あるとしたら、その大会では悔しい思いをしないように、これからの短い期間の練習を有意義に使い、練習に取り組んでいくことが大切だ。

自分は、この自粛期間で野球ができるという幸しさ、皆で野球ができるという楽しさについてより深く感じる事ができた。この気持ちを忘れずに、1日1日の練習に取り組んでいき、チームメイトと互いに刺激し合い、夏の大会で良い結果を出せるように練習に取り組んでいく。

一人一人 勝利に向かって 全力疾走

全員が 勝利に向かって 全力で
力を合わせて 一戦必勝

「夏に向けて」 山口航汰 (小山三ノ内)

今年の春、夏は大波乱だった。コロナウイルスの影響で先輩方と戦はずだった甲子園大会までもがなくなってしまった。中止が決定されたその日は、頭が真っ白になった。なんのためにこの一年間、3年生と共に切磋琢磨し合って頑張ってきたのかとその時は思った。しかし、まだ終わっていない。栃木県の開催する大会がまだある。どのような形であっても、最後は3年生と戦って終わりたい。そして、自分はまだ3年生に何も残せていない。3年生に最後思いっきりプレーしてもらうために自分達が精一杯サポートする。それが3年生に対する最後の恩返しだと思う。去年の夏は、とても悔しい形で負けてしまった。自分もただ見ているだけで何もできなかった。この思いはもうしたくないし、最後は3年生と笑って終わりたい。この夏を3年生にとって最高だと思える夏にするために、大会までの練習など残り少ない日々を、一生懸命にそして何より楽しく過ごしていく。

ぶっ飛ばせ スタンド越えて 遙かな夢へ

今までの 努力を信じて プレーして
自分史上の 最高の夏へ

【1年生】

「夏に向けて」 阿部遥斗 (小山二ノ内)

今年の夏は、新型コロナウイルスの影響で夏の大会が中止となってしまいました。そんな中でも自分にできることがあると思いました。それは、自主練習やサポートなどです。

新型コロナウイルスの影響で、今年の1年生は例年と違い約2か月部活動ができない状態でした。しかし、この時に感じたことが、家での自主練習が大切だということです。家でも柔軟や、自分は体が小さいのでご飯を食べるなどのことに取り組みました。そしてこれからは、体力面が落ちているのでしっかり運動し、夏に向けて準備していきたいです。

また、今年は夏の大会の代わりに、その時は先輩のサポートをしていきたいです。また試合のときには大きな声を出し、先輩方が気持よくプレーができるように全力で支えていきたいと思っています。そして、最後が良かったと思われるように頑張りたいです。

暑い夏 白球転がる グラウンド

これまでの 努力を全て 振り絞り
絶対勝つぞ この熱い試合

「自分に今できること」

荒川 優太 (野木二ノ投・内)

新型コロナウイルスの影響で僕たち1年生は小山高校に入学した後、まだ1日も野球部の練習に参加することができていません。そのため、僕は同級生や先輩方としっかり話すことができていないことに不安を感じています。今は、部活動が再開したらできるだけ早いうちにそのような不安をなくし、小山高校野球部にとけこんでいきたいと思っています。

僕は野球部の練習が再開したら、先輩方のサポートをしながら、今までの練習ができていなかった期間を取り戻すためにどんどんコミュニケーションをとってこうと考えています。そして先輩方から盗める技術はどんどん盗み、先輩方の野球に対する姿勢はどんどん真似していきたいと思っています。また、先輩方の足を引っ張ってしまうことがないように集中し、1日1日の練習に真摯に取り組んでいきます。

3年生が最後まで全力で野球に取り組めるように全力でサポートしていきます。

諦めず 勝利を信じ 全力プレー

全員で ワンチームとなり 戦おう
夏の大会 小山の敵なし

「マネージャーになって」

五十嵐歩花 (小山二ノマ)

私が野球部のマネージャーになったのは、一つ上の兄の影響です。兄が野球の練習をしている姿や、試合に出ている姿を小さい頃から見、ずっとかっこいいなと思っていました。プロ野球や甲子園と一緒に見るようになり、私は野球が好きになっていました。そして、「野球に関わりたい」と思い、野球部のマネージャーになりました。

今年は学校が始まるのが遅く、まだ部活が始まったばかりでマネージャーの仕事を覚えきれていません。まず、仕事を早く、正確に覚えて自分がやるべき仕事にしっかりと取り組みたいです。また、野球のルールがあやふやなところがあるので、勉強をして完璧にします。

もう少しで試合が始まります。先輩方が野球に集中できるようにサポートを頑張りたいです。小山高校がたくさん勝てればいいなと思います。

声援が 熱い試合を 盛り上げる

たくさんの 声が飛び交う グラウンド

夏に向けて 高まる想い

「高校野球」 伊藤帆伽 (小山二ノマ)

野球とは、私に人を応援したいという気持ちを与えてくれたスポーツです。

初めは、テレビでプロ野球の試合を見ているだけでした。ルールも分からず、とても面白いとは言えないものでした。学年が上がり、ルールや面白さが分かり始めたころ、甲子園を見てとても感動しました。出場校ごとに予選からのドラマがあり、心からどの学校にも勝ってほしいという気持ちになりました。

高校野球においては、マネージャーも必要不可欠です。甲子園では、マネージャーのサポートがあつてこそだ。と言っている選手がいました。練習に集中して取り組める環境をつくり、一番近くで支えることができるということにとっても魅力を感じ、入部しました。

今年は、例年と違い全国での試合は開催されませ

ん。しかし、7月に行われる県大会では、選手全員が良いプレーができるように精一杯仕事をしていきたいと思います。

おしまない 日々の努力は 勝利へと

溢れ出す 夏への想い 胸に秘め
仲間と共に 勝利を目指せ

「自分のできること」稲見康汰（石橋／内）
もうすぐ夏の大会を迎えるという中、新型コロナウイルスの影響もあり、野球ができない日々が続いています。私は、4月に小山高校に入学しすぐ休校になってしまったため、先輩方と顔を合わせたのは一度しかなく、ほとんど交流もなくとても不安でした。しかし、3年生の先輩方は最後の大会がもうすぐ始まります。だから私は、自分のできることをしっかりやり、部活動が再開された時に先輩方をしっかりサポートできるように準備をしようと思いました。そして、先輩方が夏の大会で力を発揮できるようにサポートや応援などを全力で取り組み、先輩方を支えていきたいです。

夏の大会まで残りわずかですが、しっかりと出来ることをやり、先輩方に「最後の夏は良かった。」と思ってもらえるように、サポートや応援などの準備を万全にし、部活動が再開したら全力で先輩方を支えていきたいです。

全力で 勝利目指して 走り抜け

辛くても 仲間を信じて 前を向き
勝利に向かって 突き進め

「夏に向けて」海老沼 遥（大平南／内）

私が小山高校の野球部への入部を希望してから2か月が経ってしまいました。練習などもチームで行えず、同学年の野球部の顔と名前も全然わからない私が、夏にできることは先輩方のサポートしかないと思います。甲子園へ行くことはできなくなりましたが、栃木県大会はあるそうなので、先輩方に試合にだけ集中してもらい、最高のパフォーマンスをしてもらうために私はサポートに集中したいです。もちろん大会中だけでなく、練習ができるようになってからずっと先輩方に気持ちよく練習が行えるようにグラウンド整備や掃除など隅々まできれいにやっていきたいです。夏の大会で引退してしまう3年生が活躍し、できるだけ長くプレーをしてもらい、最後の試合で悔いが残らないようになるべく良い環境をつくれるようサポートを頑張りたいです。

出しきろう 日々の練習 思いだし

出しきろう 日々の練習 思いだし
最後に流そう うれし涙

「野球というスポーツは1人ではできないこと」大澤奏次郎（東陽／投）

私は小学2年生の時から野球を始めました。小学5年生から本格的にピッチャーを始め、決して球速があるわけではなく、コントロールも良くない自分は背番号「1」をもらいました。期待に応えられるよう努力しましたが、あまり上手くなりませんでした。しかし、そんな時に周りの仲間が支えてくれて、自分は成長することができました。中学の時

も、周りの声援に支えられて力を出すことができませんでした。

ここから考えられることは、野球というスポーツは1人ではできないこと。高校野球が始まってその思いは忘れないようにしたいと思います。そして、3年生にとって最高の夏となるよう全力でサポートしていきたいと思います。

甲子園 一人では絶対 届かない

練習を コロナのせいで 出来ない
嘆いてばかりは 前へ進めん

「夏の大会への意気込み」

大山拓（茨城・結城東／

外）

私の初めての高校野球がもうすぐ始まります。今の私の素直な気持ちは、焦りと不安です。まだ何も経験できていない自分の気持ちはマイナス方向に向かうばかりです。それでも、頼もしい先輩たちや同級生と野球をすることができる期待もあります。まずは信頼関係を築き、チーム全員に認められることから始めたいと思います。

夏の大会は、3年生の先輩達にとって最後の大会です。だから、自分のできる限りのサポートをしたいと思います。また、先輩達の技術を学んで自分のものにしたいと思います。そのためにも、日々の練習で周りを見る習慣をつけ、観察力を身につけたいと思います。先輩達も自分も成長できる練習をしていきたいです。

この夏の大会は、先輩達に決して悔いが残らないようにサポートしたいです。この小山高校で先生と先輩達と同級生と夢の舞台である甲子園に行きたいです。

小高野球で 勝利の執念 見せつけろ

夏のため 重ねた努力を 今ここで
この一球に 全てを注げ

「まずは自分にできることを」

小林拓海（国分寺／内）

本当ならばこの時期通常通り学校に通い、先輩方や仲間達とグラウンドで必死になって野球をしている頃だろうか。新型コロナウイルスの流行を防ぐために出された緊急事態宣言により、今年は入学から六月まで休校が続いた。休校のため部活動も禁止になった。そのため、まだ数回しか顔を合わせられていない先輩もいる。そんな中、高野連は、夏の甲子園の中止を発表した。甲子園の中止は戦後初めてだそう。私は今の先輩方の試合を見に行ったときに、一生懸命プレーしている姿に惹かれ、この小山高校に入学したいと考えた。そんな先輩方が目標としてきた甲子園がなくなってしまったのは、とても残念だと思う。しかし、栃木県では甲子園の代わりとなる独自の大会を実施するそう。そのため、その大会で優勝することが目標になると思う。先輩方に良い試合をしてもらうために、まず私は全力で先輩方をサポートしようと思う。

一戦必勝 ひとつになって 勝ち上がる

最後まで その一球に 集中を
やるべきことを 精一杯に

「これからに向けて」

佐藤しずく (小山城南／

外)

今年はコロナウイルスの影響により、春の選手権、夏の甲子園がなくなってしまい非常に残念です。私はまだ入部して間もないですが、3年生にとっては甲子園につながる最後の大会がこのような形で無くなってしまい、その悔しさは計り知れないほどの気持ちがあると思います。

例年になく、私達1年生は6月から入部・練習参加となり3年生との時間が短いため、これから学ぶことをより大切に取り入れていきたいと思っています。また、個人だけでなくチームワークを深めるため、私は先輩たちのサポートに一生懸命励んでいこうと思っています。

このような状況の中、野球ができるということに感謝し、サポート及び全力プレーを怠らずにしていきたいと思っています。

これからに向けて、1日でも早く小山高校野球部の一員として慣れ、声だし、準備・片付けを全力でやり、3年生、チームに貢献できるように頑張りたいと思っています。

あきらめず 全力プレーで 夢叶う

今までの 努力の結果を 見せてやれ
そしてつかめ 甲子園の頂点を

「始まりの夏」 新村桜 (小山三／マ)

私にとって全てが「初めて」となる夏が始まるとうとしています。周りの景色や先輩方の動きが新鮮で、楽しみである気持ちと共に、私は本当に仕事ができるのか。という不安を持っています。今年の夏は新型コロナウイルスの影響で例年とは異なり、県大会のみで3年生の先輩方は引退されてしまいます。こんな初めての夏。私たちは半年損をしています。と悲観的に捉えるのではなく、私たちは試されている。新しいことに挑めるなんてとても光栄なことだ。と前向きに考え、初めての夏を全力で楽しみ、3年後には先輩方のように頼られる人になりたいです。そのために、多くのことを考え、積極的に動きたいです。初めてのことに怯え挑戦しないより、たくさんの方に挑戦して、悔いの残らないよう、初めてのことにどんどん飛び込んでたくさんの方の失敗とたくさんの方の後悔と大きな成長をしていきたいです。

炎天下 ガッツポーズの ホームラン

歓声と どよめき響く グラウンド
白球を追う 初めての夏

「自分たちにできること」

関口心汰 (小山二／投)

もうすぐ、3年生にとって最後の夏が始まる。今年は新型コロナウイルスの影響で夏の甲子園が中止となってしまった。ただ、栃木県独自の大会が開催されることになった。自分たちもこれまで練習に参加できていないが、そんな中でも出来ることはあると思う。

今、自分はプレーでは貢献することはできない。だからこそ、声援で先輩達に貢献したい。どんな試合でも苦しい場面は必ずやってくると思う。そんな

場面で、自分の声援が先輩達の後押しになれるように頑張りたい。他にも、練習前の準備や練習後の片付け、移動の際の荷物を持つなど、試合以外の場面でも先輩達が野球に少しでも集中できるような環境をつくりあげていきたい。

甲子園が中止になってしまい、先輩達の中には、自分には分らない程の思いがあると思う。ただ、最後の夏、先輩達の力になるために自分達ができることを少しでも見つけて、サポートしていきたい。

アルプスの 声援皆に 響かせろ

夏の陽に 負けない熱さ つくるため
心を燃やせ 魂燃やせ

「自分のやるべきこと」

田口幹葵 (西方／投・捕)

自分が102回を迎える3年生最後の大会でできることは、精一杯先輩方に声を届けて応援することだ。なぜなら、3年生はこれまでの2年半の部活をこの大会に向け、たくさん汗を流し努力し続けてきたと思うからだ。

自分は、昨年の春の大会で小山高校の試合を観戦した。その時に、先輩方の野球に対する熱意と、最後まで決して諦めずに全員野球でプレーする姿に感動し、自分もこんな先輩方とグラウンドで一緒にプレーしたいという気持ちを持ち、小山高校への入学、野球部への入部を決めた。

さらに、この小山高校は過去甲子園に六度出場している伝統ある高校だ。そのことに誇りと自信を持ち、先輩方と一緒に創部七度目の甲子園に出場し、笑顔でこの夏の大会を全員で戦っていきたく思っている。また、自分たちのことを支えてくださっているたくさんの方々への感謝を忘れず、この大会で自分のやるべきことを果たしたいと強く思う。

初の夏 みんな笑顔で 甲子園

汗流し 感謝の気持ち 忘れずに
大きな声で 勝利へつなぐ

「これからの自分にできること」

田原 玲 (栃木東・栃木B／捕・外)

私は高校野球の道を歩みはじめた。小さいころから憧れた場に足を踏み入れ、日々練習に励んでいる。しかし、新型コロナウイルスの影響により、春休みから五月末まで野球の全体練習は滞り自主練習が続いていた。私はこの舞台で活躍するために、自主練習を怠らず継続は力なりという言葉信じて、今自分ができることをこつこつと頑張ってきた。

今年の夏の大会は、行われること自体危うい状況にある。甲子園につながる大会はなくなってしまったが、3年生が最後より良い形で引退できるように、我々後輩たちがしっかりと練習のサポートをしていきたい。

最後に、私は今まで練習してきたことをこの高校野球で発揮していきたい。そして伝統ある小山高校野球部が良い結果を得られるように仲間と練習したい。これから3年生のサポートと自己向上を目標に頑張っていきたい。

熱い夏 日々の努力 魅せつけろ

甲子園 全力プレーで 夢目指す

みんなで応援 全員野球

「夏に向けて」 野口大翔（南河内／内）

今年は、例年よりもスタートするのが遅くなり、3年生と野球をする時間が少なくなっていました。この残り少ない時間の中で私ができることは、早くやることを覚え、サポートをし、良い状態で野球ができるようにすることです。夏に近づくにつれ先輩方は気持ちが高まっていき、より野球に集中するので、負担を減らしていきたいと思います。先輩方が荷物を持っていたら変わったり、指示をすばやくこなしたりしたいです。

私がすごいと思ったことは、あいさつと返事が大きく、はっきりしているところです。中学校の時とは全く違い、緊張感がさらに高まりました。

これから、野球のプレーだけでなく人間性も見習い、チームに貢献できるようにします。今年は甲子園がなく、とても残念です。だから最後の大会にぶつける気持ちはさらに強くなると思うので、その気持ちに自分も応えられるように、全力でサポートや応援をしていきます。

最後まで 熱い思いを ぶつけよう

スタンドで 自分の声を 出しまくる

我慢を乗り越え 最高の勝利を

「夏に向けて」 橋本陵汰（大平南／内）

私は、今回の甲子園・甲子園県予選が中止になってしまい残念です。夏の大会は全国の3年生にとって高校野球での集大成であり、一番大切な大会です。しかし、甲子園の予選は中止になってしまいました。栃木県の大会は開催されるかもしれませんが、3年生の先輩方が目標にしていた甲子園出場ができなくなってしまいます。だから、私は先輩方の代わりに甲子園出場を成し遂げたいと思います。そのためには、一刻も早くコロナウイルスを終息させる必要があります。そして、休校中も体作りを行ったりして体力が落ちないように意識したり、素振りやキャッチボールなどもしていました。このようなことは練習として地味で基本のことですが、一番大切なことです。野球が上手くなるには基本のことをいかにしっかりやることができるかが大切だと思います。だから、これから小山高校で野球の練習が始まったら、基本のことほどしっかり行い、チーム皆で上手くなり甲子園に出場したいです。

甲子園 新たに刻む 1ページ

炎天下 仲間とともに 競い合い

努力を重ね 目指す甲子園

「夏の大会に向けて」

宮田悦秀（絹義務教育学校／

捕）

夏の大会まで残すところあと僅かとなりました。今年は例年より先輩と接する機会がありませんでしたが、3年生にとって最後の夏に向けてサポートをすると共に先輩の練習に対する姿勢や行動を学びたいと思います。また、少しでも多くの技術を盗めるように一日一日の練習を頑張りたいです。

例えば、私ができるサポートとしてボール拾いやグラウンドの整備があります。これらを積極的に行い、効率の良い練習をしていきたいです。ま

た、今の3年生は毎日疲れていても、勉強に部活に励んできたと思います。その姿を見て1日でも早く先輩のようになれるように頑張ります。

また、夏の大会本番では、スタンドで応援できるか分かりませんが、精一杯声を出して試合に出ている選手を盛り上げていきたいです。先輩方には全力で楽しく野球をしてもらい、また、家族や地域の人へ感謝の気持ちを込めてプレーしてほしいです。

青空に 快音響く 小高生（おこうせい）

全力で 白球追いかけて 勝利の路

仲間を信じ 明日にときめけ

「自分の目標」

渡邊雄介（南犬飼・宇都宮ポニー／内）

私がこの夏に向けて頑張っていきたいことは二つあります。

まず一つ目は、小山高校での部活と勉強の両立をすることなど、少しでも早く学校の生活に慣れていきたいです。そしてたくさんの仲間を作って行きたいです。

また二つ目は、野球部の練習を一回一回大切に新しい仲間と一緒に練習することです。そして一年生大会でたくさん活躍し次の大会で試合に出られるようになりたいです。またこのような事態がまた来ないとは限らないので、一つの練習を悔いが残らないように練習したいです。

小山高校の野球部で中学の時の野球経験を活かしたくさん活躍していきたいと思っています。そのためにすこしでも体力が減らないように、部活ができない日があっても自主練習を行っていき本番に備えていきたいです。

この夏に 見るはずだった 大きな背中

コロナ禍で 悔しき思い 跳ねのけて

バットに乗せる この思い